

バブルでもコロナでも積立投資は資産の2倍か!?

～多様な資産・投資期間・終了時期で積立投資の有効性を検証、日本証券業協会も重視している「少額からの積立投資による基礎的な資産形成」～

三菱UFJ国際投信株式会社 商品マーケティング企画部 松尾 健治
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

●日経平均が最高値を付けたバブル・ピークから積立投資をしても資産は2倍か!?

2021年9月10日付日本証券新聞1面に「日本証券業協会 森田敏夫会長に聞く」という見出しで次の通り出ていた。その一部を引用する(下線はコラム筆者、URLは後述[参考ホームページ]①参照)。

■積み立て投資のすゝめ

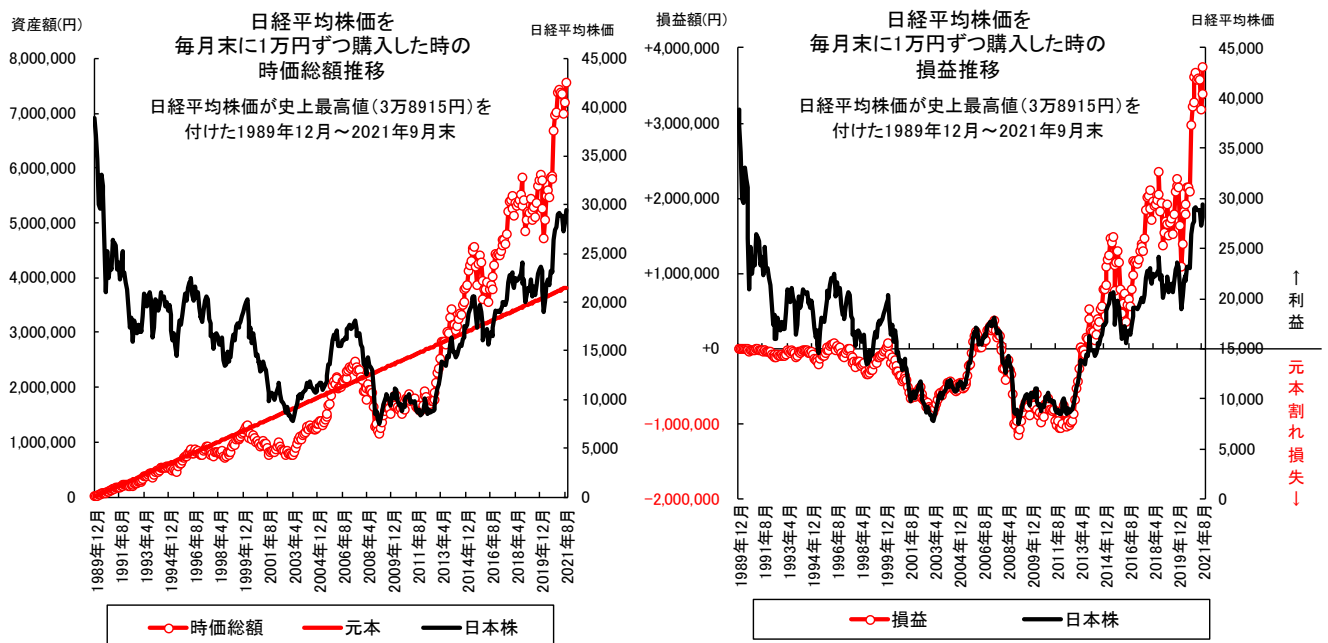
——以前、金融教育の一環で学生にお話をされたと同いました。

「2、3年前、日経平均が2万3000円だったころ、ある大学で次のことを学生に話した。『日経平均が史上最高値(3万8915円)を付けた1989年12月に日経平均を買ったとしたら、現在は2万3000円のため4割安。ところが、その時から積み立てで日経平均を毎月1万円ずつ買っていたとしたら1.6倍になっていた』。また、『もし今、私が学生だったらそのような時間を味方に付ける投資を行う』と申し上げた」

「積み立ての良い点は高い時に少ししか買えず、安い時にたくさん買える点にあり、時間を味方に付け結果的に平均購入単価を下げられる。つみたてNISAをはじめとする積み立て投資は、資産形成や個々人のライフプランの実現につながり、そういったことを多くの人に理解していただくと投資に対する印象が随分変わるのではないか」——



上記発言は1989年12月の日経平均株価が最高値を付けたときから毎月1万円の積立投資を始めて、2018年8月～2019年8月頃まで約30年続けた場合の結果である。スタート期間を同じ1989年12月として、最新2021年9月まで約32年で見たとのが下記のグラフである(冒頭記事に合わせて、日経平均株価は配当除くの価格指数で算出)。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

日経平均が史上最高値(3万8915円)を付けたバブル・ピークの1989年12月から日経平均を毎月1万円ずつ買っていたとしたら、20年以上、ほとんどが利益の無い、元本割れ損失となる期間はあるものの、2013年頃から利益が出始める。2017年11月末(2万3000円近く)に元本の1.6倍を超え(配当含むなら約2倍となり)、2020年11月末(2万6000円台)に元本の1.8倍(配当含むなら約2.3倍)、そして、2021年9月末(2万9,453円)に約2倍(配当含むなら約2.6倍)になる。

「資産成長の目標は『積み立て20年で資産2倍』がひとつの目安になるということです。『20年で2倍』は、理論的にも妥当な水準です。株価は、長期的には経済規模の拡大に伴って上昇すると考えられます。世界の実質経済成長率が年3~4%、物価上昇率が年2%とすると、名目経済成長率は年5~6%程度。年5~6%の利回りで毎月積み立てれば、20年間で1.7~1.9倍と、2倍近くになります。」(2018年3月3日付朝日新聞朝刊~URLは後述[参考ホームページ]①)と言う。

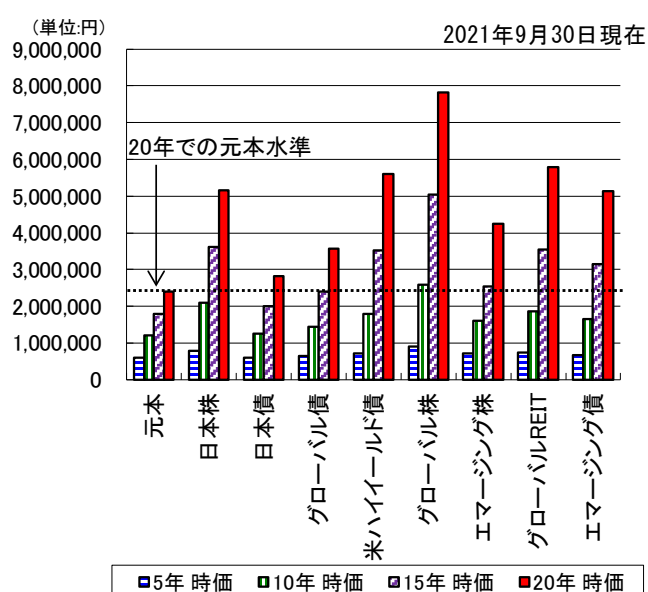
上記は**史上最高値の時に積み立てを始めても、長期で見れば、利益の多く出る場合がある**事を示している。しかし、途中で損失となる期間も長く、実際30年と言う期間を誰もが選択出来る訳ではない。**1989年12月から20年弱が経過した2009年2月末(7568円)で積み立てを終える事となれば、元本の0.5倍**となっている。長期積立投資は万能では決してなく、「出口」、つまり、いつ退職等で積み立てを終えるかがとても重要となる。そこで当コラムでは、分散を意識して日本株以外の多様な資産について、5・10・15・20年と多様な期間で見ても、それらの「出口」も変えて見る。多様な資産・投資期間・終了時期で積立投資の有効性を検証すると言う事である。尚、当コラムでは、日本でNISAが始まる前年、2013年2月8日付日本版ISAの道その2から、継続して積立投資のリスク/リターンについてベンチマーク別に検証してきた(URLは後述[参考ホームページ]②参照)。

多様な資産・投資期間・終了時期で積立投資の有効性を検証

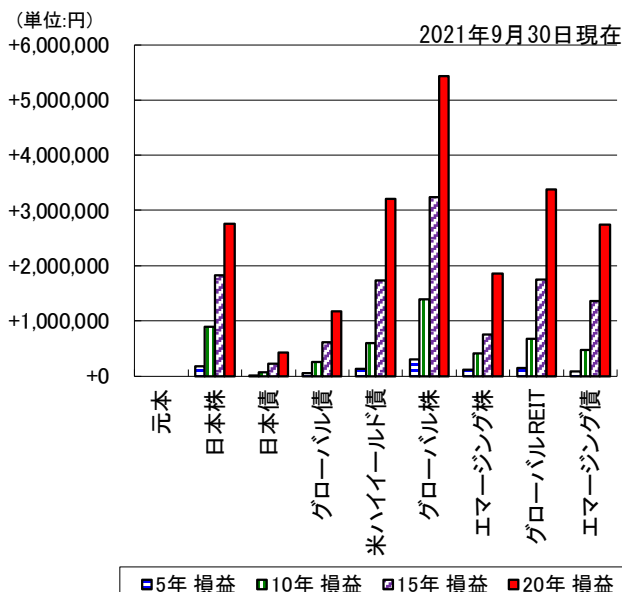
毎月1万円ずつ積立投資をしていたら、今いくらになっているのか。まず2021年9月末までの投資期間5年、10年、15年、20年の元本とリターン(損益)が下記のグラフである。グラフの左が時価、右が損益である(*手数料等は考慮せず)。

投資期間5年・10年・15年・20年

2021年9月30日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の**時価** *左から投資期間 5年・10年・15年・20年。



2021年9月30日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の**損益** *左から投資期間 5年・10年・15年・20年。

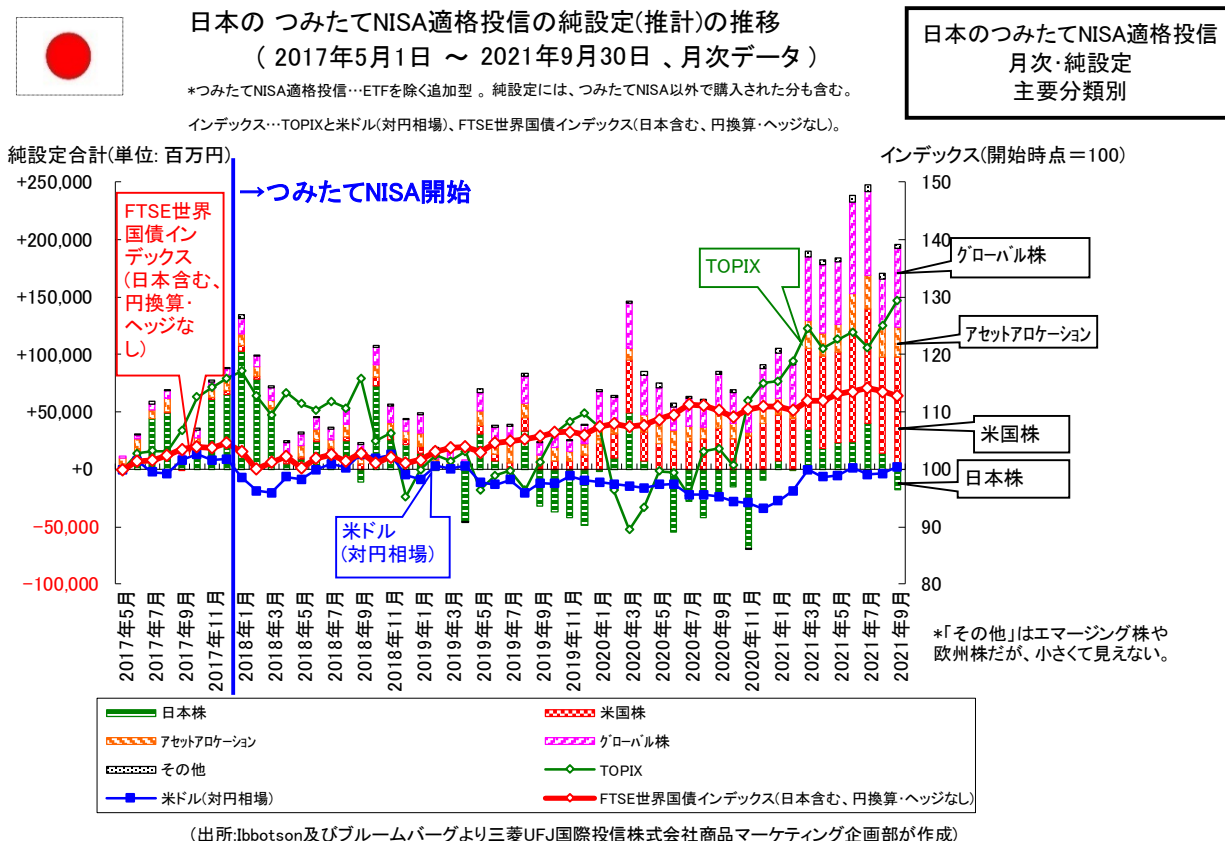


(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

*ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを、当コラムで2013年2月8日付日本版ISAの道その2から継続して使用している(以下同じ)。

5年、10年、15年、20年、いずれの資産もプラスのリターンとなり、グローバル株のリターンが最も良かった。「つみたてNISA」適格投信フローにおいて、2021年は米国株ファンドとグローバル株ファンドが主導する純流入が続いているが、合理的な投資と言えそうである。



(出所: Ibbotson及びブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

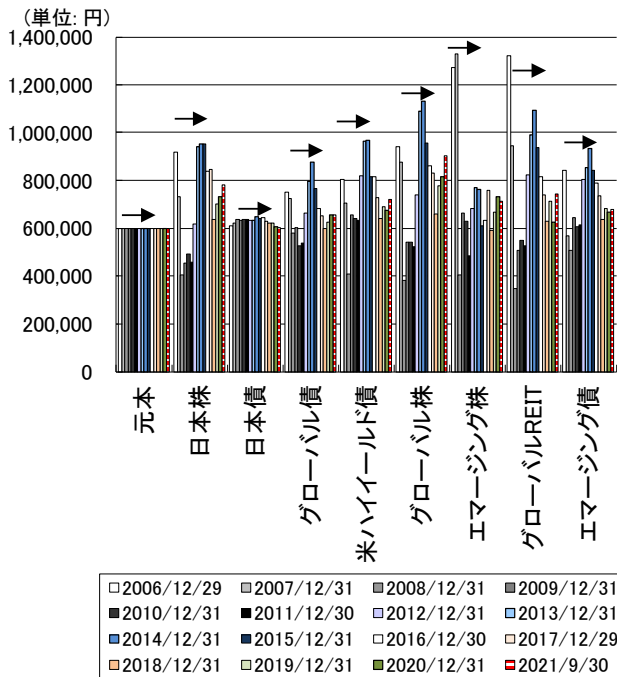
2021年9月末までの期間は最後の1年半がコロナ禍となる。その中、例えば日本株に積立投資すると5年で1.3倍、10年で1.7倍、15年で2.0倍、20年で2.2倍となる。グローバル株に積立投資すると、資産は5年で1.5倍、10年で2.2倍、15年で2.8倍、20年で3.3倍となる。

ただ、積立投資は一括投資の様な「投資時期と終了時期の2時点での市場次第」と言うリスクは軽減されるが、「終了時期の市場次第」と言うリスクは残る(*積立期間中に市場価額が上がり平均投資単価が高くなる場合もある)。「成長が最小だったのは、1989年にスタートしたケース。積み立てを終えたのが2008年のリーマン・ショック直後で、株価の大暴落と急速な円高が起きた最悪のタイミングで換金したためです。」(2018年3月3日付朝日新聞朝刊~URLは後述[参考ホームページ]①)、「積み立ては後半になるほど投資額が膨らむため、投資をやめる時期の相場環境に結果が大きく左右される。」(2016年1月4日付日本経済新聞電子版~URLは後述[参考ホームページ]②)とされている。そこで当コラムでは、積立の終了時を2006年~2020年の各年末、2021年9月末として検証する。

まずは投資期間5年である。次頁上段の通りだが、新型コロナウイルス感染症による市場急落時(2020年3月末)では、日本債とグローバル債を除く資産は損失だったが、それらの資産も最新2021年9月末は利益であり、グローバル債とエマージング株を除く資産は昨年2020年末より利益を増やしている。グローバルREITやグローバル株・日本株について、リーマン・ショック(2008年9月)後2008年末から2011年末まで損失が続いている。ただ2012年末に回復、2014年末にかけ利益が急拡大している。2020年3月末までの積立結果については、2020年4月16日付日本版ISAの道その302参照(URLは後述[参考ホームページ]②)。

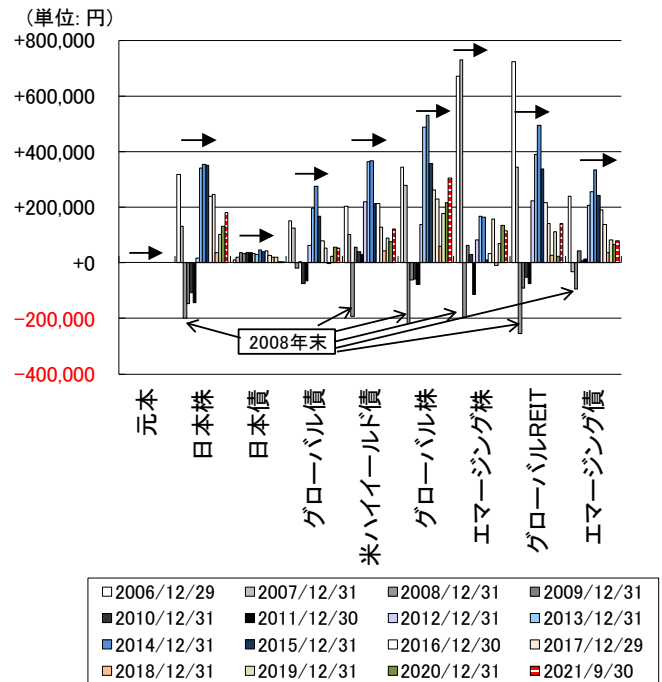
投資期間 5年

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の **時価**
*左から2006年～2020年の各年末、2021年は9月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の **損益**
*左から2006年～2020年の各年末、2021年は9月末。

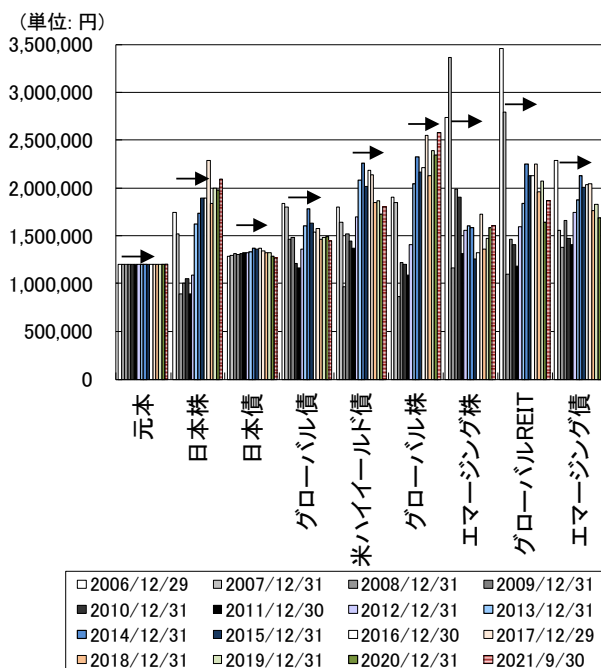


(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

次いで**投資期間 10年**である。下記の通り、**投資期間 5年に比べ総じて黒字化している**。グローバル REIT とグローバル株は、投資期間 5年では 2008 年末から 2011 年末まで損失だったが、10年では、2008 年末と 2011 年末だけで損失である。エマージング株は 5年では 2008 年末・2011 年末・2018 年末いずれも損失だったが、10年では 2008 年末のみ損失となっている。総じて損失となる年が減り損失額も小さくなっている。ただ、日本株は 2008 年末から 2012 年末まで損失であり、投資期間 5年より損失年が増えている。

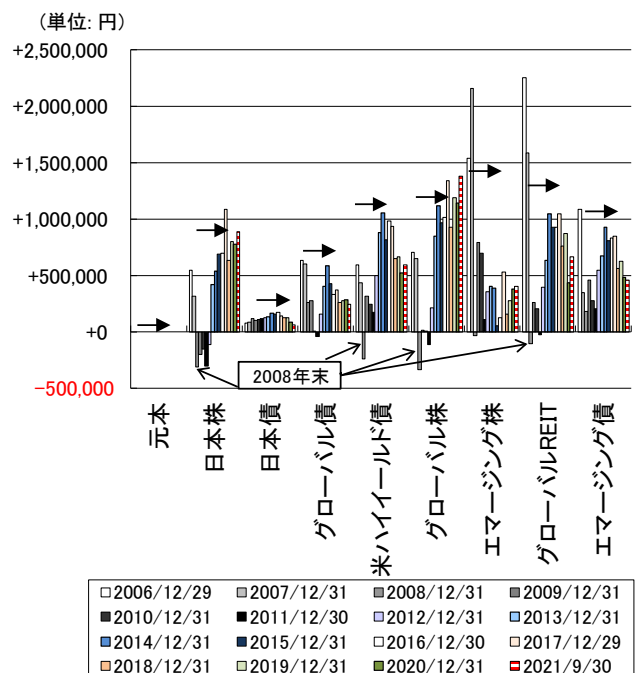
投資期間 10年

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の **時価**
*左から2006年～2020年の各年末、2021年は9月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の **損益**
*左から2006年～2020年の各年末、2021年は9月末。

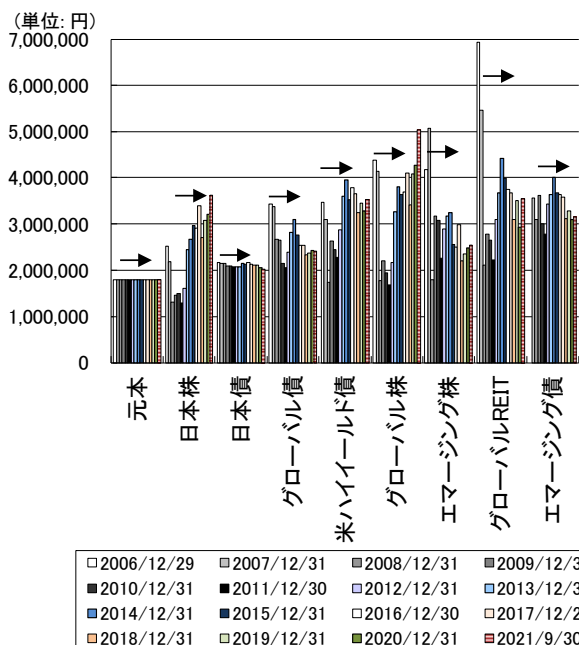


(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

そして投資期間 15 年と 20 年である。黒字化がより鮮明となる。下記の通りだが、大半がいずれの時点でも利益、もしくは、見えないくらいの損失にとどまる。2012 年末までマイナスだった日本株は 2013 年に黒字化する。2018 年末から 2021 年 9 月末にかけて利益が拡大している。リーマン・ショックの様な相場暴落時でも、新型コロナウイルス感染症の影響による相場変動時でも、長期になればなるほど積立投資では良好な結果になっている。

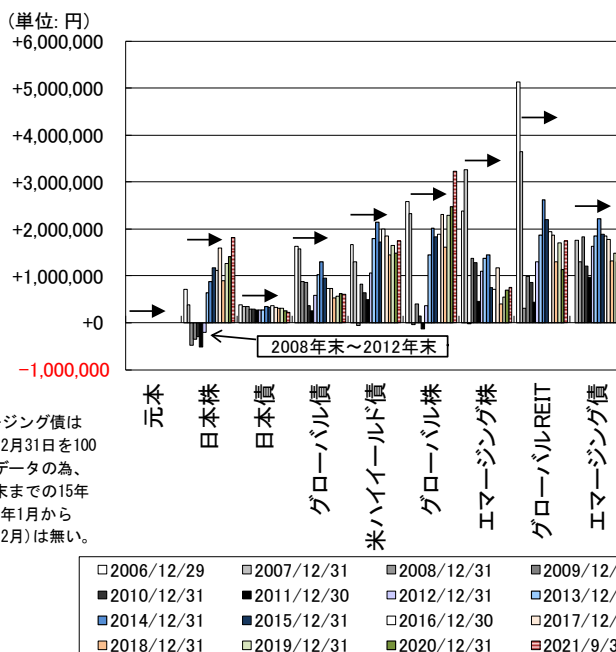
投資期間 15 年

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の 時価
*左から2006年～2020年の各年末、2021年は9月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

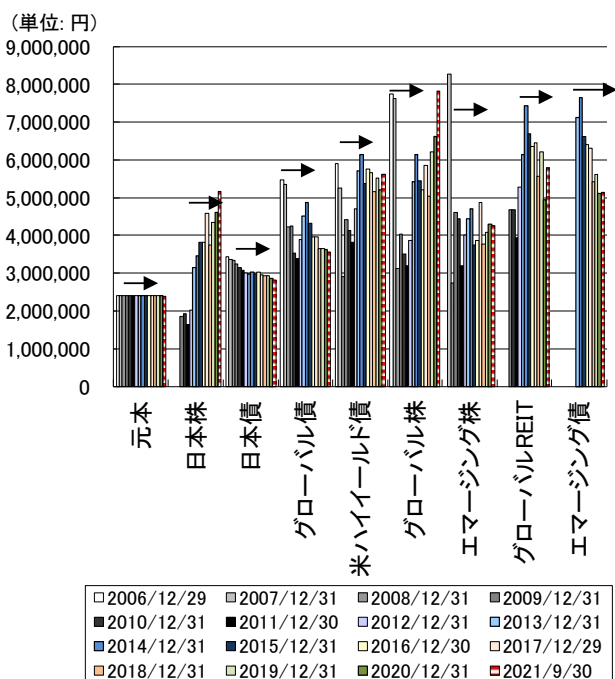
毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の 損益
*左から2006年～2020年の各年末、2021年は9月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

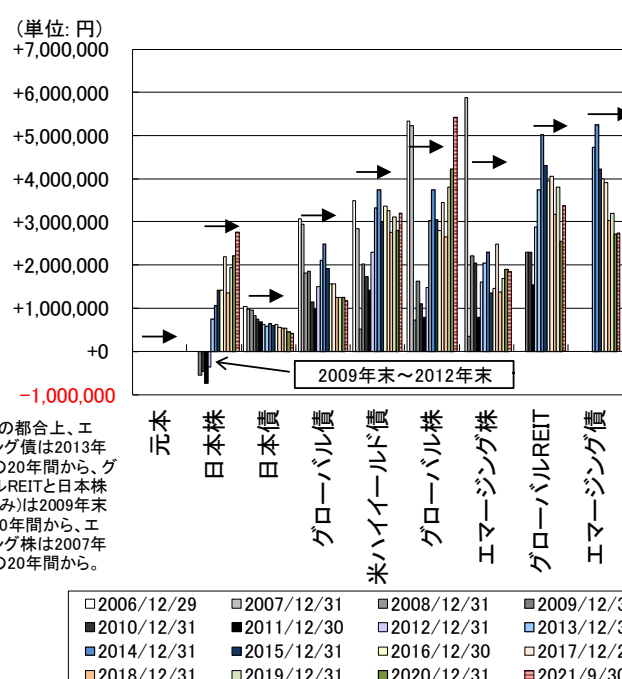
投資期間 20 年

毎月末に10000円ずつ20年間購入した時の 時価
*左から2006年～2020年の各年末、2021年は9月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

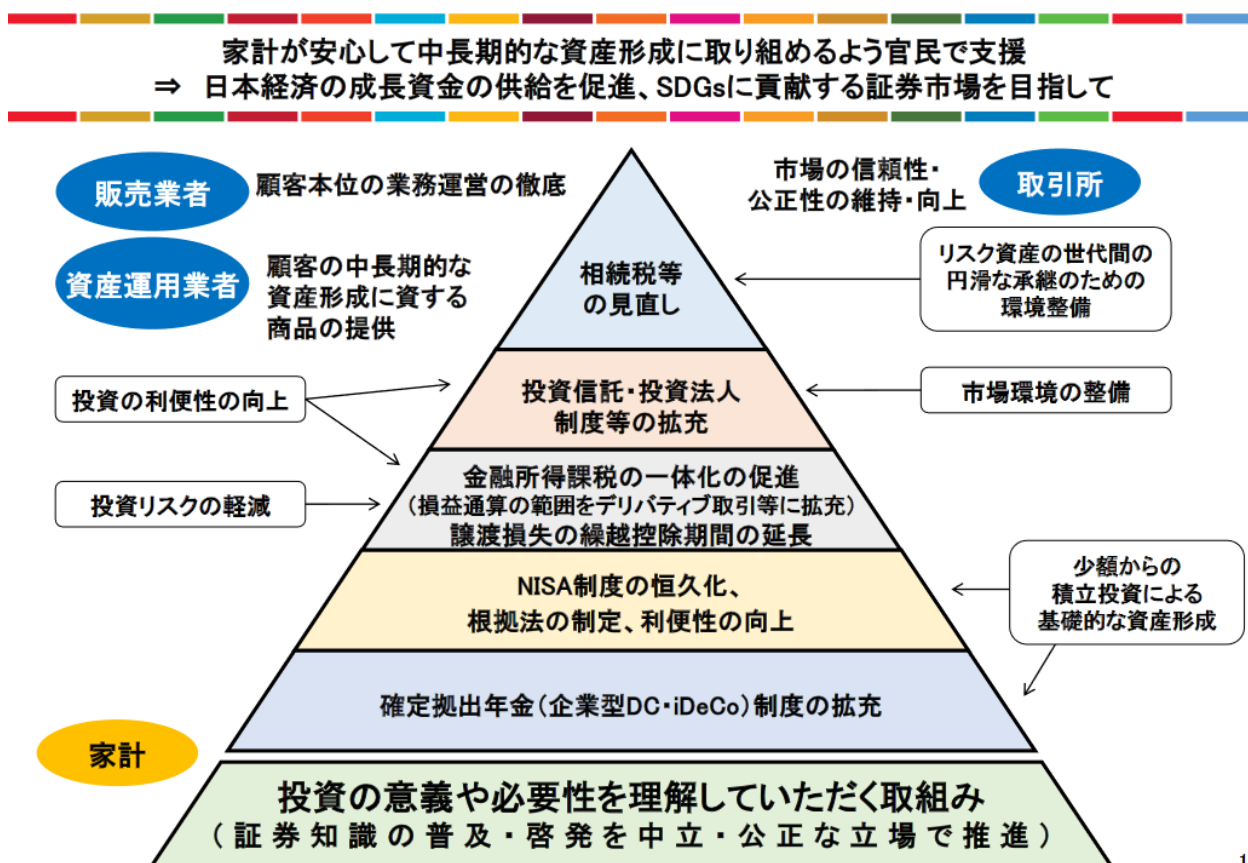
毎月末に10000円ずつ20年間購入した時の 損益
*左から2006年～2020年の各年末、2021年は9月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

以上のリターンやリスク等を参考に積立を検討、節税出来る金融商品を使い、多様な選択肢から長期・分散の積立投資をして資産形成の一助になる事を強く期待している。

最後に、日本証券業協会は 2021 年 9 月 15 日に「令和 4 年度税制改正に関する要望」を公表しているが(URL は後述[参考ホームページ]②)、その「要望項目説明資料」1 頁目にある下記図が示す通り、「少額からの積立投資による基礎的な資産形成」がとても重要な位置付けとなっている。



(出所: 2021 年 9 月 15 日付日本証券業協会・投資信託協会・全国証券取引所協議会「令和4年度税制改正に関する要望」)

以上

[参考ホームページ]

①2021 年 9 月 10 日付日本証券新聞「日本証券業協会 森田敏夫会長に聞くー『高齢者の資産形成と資産活用』より良い枠組みをー遺言信託・代理人制度の改良なども一法』…<https://www.nsjournal.jp/>」、
2018 年 3 月 3 日付朝日新聞朝刊「(知りたい投信 なるほどリッパー)長期投資のすすめ:4 『20 年で 2 倍』がひとつの目安」…<http://www.asahi.com/business/stock/toshin/SDI201803054295.html>」。

②2021 年 6 月 14 日付投信調査コラムその 335「投信のネット取引が過去最高を更新中! ネット(スマホ含む)の利用が多い若い世代の投信保有が着実に増加!!若い世代が増えつつある NISA で引き続きグローバル株と米国株が人気!!!」…https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_210614_2.pdf」、
2013 年 2 月 8 日付投信調査コラムその 2「ISA 口座と特定口座(一般口座)をセットにした積立投資を考える。エマージング債やグローバル REIT、ハイイールド債、エマージング株などが注目」…<https://www.am.mufg.jp/text/130208.pdf>」、
2020 年 4 月 16 日付日本版 ISA の道 その 302「コロナショックで市場が急変動! こういう時こそ積立金額を増やし、慌てないで継続を!!」…https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_200416.pdf」、
2016 年 1 月 4 日付日本経済新聞電子版「積み立て投資は 10 年続けよ『勝率』は 9 割“完璧”安心老後のポートフォリオ」…<https://style.nikkei.com/article/DGXMZ094234550Q5A121C100000/>」、
2021 年 9 月 15 日付日本証券業協会・投資信託協会・全国証券取引所協議会「令和4年度税制改正に関する要望」…<https://www.jsda.or.jp/about/teigen/zeisei/20210914104532.html>」。

三菱UFJ国際投信【投信調査コラム】日本版ISAの道 バックナンバー：
「各年ごと…<https://www.am.mufg.jp/market/report/investigate.html>」、
「2013年2月1日付日本版ISAの道 その1から一気に見る/検索する…
<https://www.am.mufg.jp/smp/market/report/investigate.html>」もしくは
Google等で「投信調査コラム」もしくは「日本版ISAの道」と検索。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- OPIX(東証株価指数)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- FTSE世界国債インデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
- 「日経平均株価」に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。
- ブルームバーグ(BLOOMBERG)は、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピー(Bloomberg Finance L.P.)の商標およびサービスマークです。パークレイズ(BARCLAYS)は、ライセンスに基づき使用されているパークレイズ・バンク・ビーエルシー(Barclays Bank Plc)の商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社(以下「ブルームバーグ」と総称します。)またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・パークレイズ・インデックス(BLOOMBERG BARCLAYS INDICES)に対する一切の独占的権利を有しています。